

KANAGAWA HOHYUH CLUB
神奈川放友会
Newsletter



Vol. 6 No.4 Oct. 2013
第24号

神奈川放友会

〒231-0033 横浜市中区長者町4丁目9番地
ストーク伊勢佐木1番館504号

TEL 045 681 7573 FAX 045 681 7578

発行人 長谷川 武

発行日 2013年10月15日

若い仲間との交流を！

神奈川放友会 副会長 早瀬 武雄

日本時間9月8日早朝、2020年の夏季五輪・パラリンピックの開催地が決まりました。

日本の現状は、東日本大震災が発生・原発事故が起こり、その対応の問題で、復旧が遅れています。この様な中での夢の持てる決定です。

特に、この開催に対し、東日本大震災の対応と東京電力福島第一原子力発電所事故の対応を日本政府が責任を持って根本的に見直しすることが発表されました。これからの日本が夏季五輪・パラリンピックへの夢と復興への期待が持てる素晴らしい時代になることを願っています。

神奈川放友会は平成19年11月17日に創立しましたので、満6年を迎えようとしています。

当時は団塊の世代が60歳の定年を迎えはじめた頃でした。それまでは技師会会員が4~5名が定年を迎える時代でしたが、この頃から20名程の方が定年を迎えました。さらに、国は年金の支給開始年齢を引き伸ばしました。65歳までは再雇用、再任用等で働く環境が出来つつありますが、還暦(60歳)は人生の過渡期でもあり、そろそろ人生を考え直す時期であります。65歳以上を高齢者と呼ぶことを考え直そうとの話題がありますが、先んじて、元気な先輩の英知を生かせないものかと思い神奈川放友会を創設したことも一つの理由でもあります。活動目的の総論は“気楽に集まり「過去を語り、現在を語り、未来を語ろう」そんな「憩いの館」でありたい。”……です。

私達が現役の時代も業務が多忙で「ゆとり」がなく、「趣味の世界」・「ボランティアの世界」等と疎遠になっていました。ですが、放射線技師の専門化が進めば進むほど「社会の変化を捉え」客観的な立場で考え論じることが重要になってきてい

ます。「公益法人」の役割がそこにあると思います。

今年の4月に神奈川県議団に同行し福島県の「食の安全・安心への取り組み」について視察しました。福島県の放射性物質への対応、食品汚染の測定等に対し徹底した管理を行い、学校給食においても「安全・安心」を担保していることを見学してきました。残念なことは、あれだけの放射性物質の安全管理を徹底しているにも係らず、福島県産農産物が「風評被害」にあっていることでした。

私たちは、この視察の経験を生かし風評被害を少なくさせるための手助けとして「食と放射線」—安全・安心への取り組み副読本—を出版する事を企画しました。本の出版はなかなか面倒で費用も掛かることですが、昨年「食と放射線」—放射線と共生するための副読本—を出版した経験があり、この企画の実行を若い技師にも経験して頂きたいと考えました。幸い、この企画に賛同してくださった5名の放射線技師と共に企画の実現に奮闘しています。

現役放射線技師はチーム医療の一員として活躍しながら多忙な中、OBと現役放射線技師が共同で取り組めたことことに編集をまとめる立場として、意義を感じています。

「神奈川放友会」の活動の一つに、若い技師との交流があります。今回、時間に余裕のあるOBが若い仲間と目的を達成させるために協力し合うことに、我々神奈川放友会会員の一つの役割を見つけたように思います。

もっともっと若い仲間と語りあう場としての「神奈川放友会」にしたいものです。

自転車最高！！

西村 幸治(会員番号 123)

皆様は、何か趣味をお持ちですか？
こんな私は、色々と首を突っ込んでみましたが、自転車にハマっています。

始めたきっかけは、友人と江ノ島に行った時からです。「江ノ島行かない？」って誘われて、中原街道、境川サイクリングロード等を走って2～3時間程度で到着。こんな遠くまで来れた！！と感動して、まず1杯の生ビールで乾杯。

それから、稲村ヶ崎温泉に入浴して、鎌倉の食堂でまた1杯の生ビールと食事。

新横浜まで戻って、またまた焼き鳥と缶ビール…。

その時は、マウンテンバイクで行きましたが、その後、その友人がロードバイクを購入し、私もノセラレてロードバイクを購入しました。

最初は、30 km程度走るともう足が回らなくなるも、だんだん距離を行ける様になると、楽しみも倍々で増えて行きました。

そんな感じで、ビールをおいしく飲む為にも今も続けているのも事実ですが、自転車の魅力は、遠くまで行く事が容易で、行く先での美味しい食事や温泉に入ったりする事です。

電車での移動を輪行って言いますが、自転車を畳んで袋に入れて、目的地に向かうこと(帰ること)です。

昨年も例えば、西武線で飯能まで行き、飯能～(299号)秩父～佐久に1泊して、麦草峠を越えて諏訪で温泉に浸かり、電車で帰ってきたり、湘南新宿ラインで、本庄まで行き、本庄～赤城山中腹～片品村～金精峠～奥日光に1泊して、中禅寺湖や東照宮、宇都宮餃子を食して、また新宿ラインで帰ってくるなど、行動範囲も非常に広く、温泉、酒を楽しんでいます。

宿泊しなくても、三浦半島を1周したり、山中湖往復したりと大体100 km～200 km程度を1日に走りますが、そんな時も目的があり、三浦方面に行く時は海鮮関係だったり、山中湖には“ほうとう”を食べに行ったりです。

当然、日帰りの時には道中でビールは無理ですけど…。

是非、自転車に興味ある方、既に自転車に乗られている方、ご一緒出来ればと思いますので、ご一報ください。大勢で走ると、とても楽しいです。ビールも美味しいし！！是非、どうぞ。

今週末は、自宅から河口湖まで行き、1泊して富士エコサイクリング(富士山を1周)に参加して、河口湖から御殿場まで自走し、輪行で帰る予定です。



昨年の輪行帰りの諏訪駅にて



久里浜から金谷に向うフェリー内



車内ではこんな感じです



富士山5合目にて

特集『島崎藤村と神奈川及び南米』

小松崎 真一

島崎藤村と神奈川

藤村は昭和18年8月22日神奈川県大磯町の自宅で71年の生涯を静かに閉じた。

元々東京の麹町に住んでいた。太平洋戦争が始まった。この頃東京に住んでいる高齢者は東京を去るよう命令が出ていた。戦禍が予想されての事だろう。そして大磯に拠点を移した。最初は家を借りていた。それから家を買って住まいとした。現在は旧島崎藤村邸として残されている。また近くに地福寺と言うお寺がある。死後、藤村はこのお寺に埋葬されている。

ところで、この旧島崎藤村邸には「静の草屋」と言う呼び名がある。何のことが判らずに時が過ぎたが、どうも意味不明で心地悪いので調べてみた。遡ること1922年、藤村が資金と場所を提供して婦人雑誌「処女地」が創刊された。そのときに同人の寄稿家加藤静子と出会った。雑誌廃刊後加藤静子は藤村の執筆を手伝うようになる。藤村は自宅を「静の草屋」と名付けていた。住まいを移しても「静の草屋」と呼んでいたので大磯の自宅も別名として「静の草屋」としたのだった。「処女地」創刊の4年後(1928年)、藤村は静子と結婚した。静子は藤村の眠る地福寺の墓所に並んで埋葬されている。

藤村は、執筆活動の合間によく湯河原を訪ねている。湯河原に伊藤屋という老舗の旅館がある。伊藤屋は1888年(明治21年)創業、藤村の定宿であった。

島崎家の遠祖は、相州(現・神奈川県)の三浦一族の血を引く永嶋家で、子孫の島崎監物重綱が16世紀に木曾氏に仕え、その子重通が馬籠島崎家の祖とされる(島崎氏系図)。

また明治学院を卒業後、マカラズヤの手伝をした横浜の伊勢佐木町。関西放浪に出る時に訪れた星野天知別荘のあった鎌倉。旅から帰り、友人・北村透谷、戸川秋骨、平田禿木、馬場弧蝶と語らった元箱根。寄宿した鎌倉・円覚寺帰源院。透谷のいた国府津などの土地や場所が自伝的小説「桜の実の熟する時」「春」の重要な場面となっている。1928年(昭和3年)、小田原に透谷顕彰碑建立が計画された際には福田正夫らとともに遂行に尽力した。図録に書かれている。

藤村は明治七年長野県中山道の宿駅馬籠で生まれた。明治、大正、昭和を生き抜いた偉大な人物で、学校教師の傍ら詩集、児童歌集などを作詞、その後破戒、夜明け前と長編小説を世に送り出し

た。最近では平成24年秋、生誕140年記念の島崎藤村展が神奈川県横浜市の県立神奈川近代文学館で行われた。歴史の重みを感じさせるイベントであった。

島崎藤村の南米行き

平成23年横浜開港150年記念として、放友会発行ニュースレターVol.3 No.1第9号6,7ページに横浜開港150年と海外移住を投稿した。私の両親の南米行を掲載したが、更に話は続く。

外務省は現在の外交業務を司る省庁だが、その前進は拓務省という外地の管理等をおこなう省庁であった。当時、海外に日本の領土がたくさんあり、この管理を主に行っていた。その下部会社の委託によって、私の父は昭和11年(1936年)7月16日神戸港から大阪商船リオデジャネイロ丸で南米へ出発した。そして乗っていたパラグアイ移民団の輸送監督をしていたのが父であった。

その船をリオデジャネイロで降りたパラグアイ移民団は、そこから陸路パラグアイへ入った。その航海の様子はこうであった。神戸港を出発して南シナ海を通過してシンガポールからインド洋を経て、南アフリカ・ケープタウンに行き大西洋を渡り、南米ブラジルのリオデジャネイロまでの航海だった。現在は飛行機で南米まで24時間ぐらいで行けるのだが、当時の船旅で約1ヶ月半を要したようだ。

その船に島崎藤村も乗っていたのである。島崎藤村は夜明け前完結後、日本ペンクラブの初代会長に就任した。同時に副会長は有島生馬氏であった。両氏は、南米アルゼンチンで開催された第14回国際ペン大会に出席するのが目的であった。という訳で、約一ヶ月半の間、島崎藤村乗船の船で旅することになった父である。おそらく偶然の同行乗船であったと思う。藤村はその後、北米を回りフランスへ行き、日本へ昭和12年1月便船榛名丸で帰国した。父は南米へ残った。

昭和16年、日本はパールハーバーの奇襲により米国に宣戦布告し第2次世界大戦が始まった。戦争の影響で、海外赴任している政府関係の日本人に対して帰国するよう命令が出た。

父は、北米周りの三笠丸で帰国した。私が生まれたのは昭和18年6月である。

参考文献：「生誕140年記念、島崎藤村展」図録

海外旅行制度を 30 年以上続けている会社

勝 目 晃(会員番号 146)

富士製薬工業株式会社の勝目と申します。今回、ご依頼がございまして、このような形で放友会誌でごあいさつすることとなりました。

30 年近くのサラリーマン生活を過ごしております。弊社では、30 年以上前から、海外旅行制度というものを導入しております。制度についてご説明のあと、実際の海外旅行の感想を記載させていただきます。

【海外旅行制度について】

・本制度については社員からの継続の要望も多く、モチベーション向上のためにも必要と考え、協議のうえ経営執行会議で海外旅行制度を継続する事となっております。

【目的】

- ・グローバルな環境下における人材教育・能力開発の一環として、海外の諸文化に触れることによって、国際的な視野を養う。
- ・福利厚生の一環として、海外旅行でリフレッシュしてもらい、新たな気持ちで業務に望んでもらう。
- ・社員への利益還元の一部とする。

【対象者及び対象期間】

- ・入社 6 年目の社員を優先し、残りの枠は年一回、抽選とする。(抽選対象者は前制度での利用より 3 年間以上経過した方を対象とする。)
- ・対象者が対象期間中にその権利を行使しない場合は、放棄したものとみなす。
- ・権利行使は期間中に 1 回のみとする。

【旅行の内容】

対象期間中に自由に企画することができる。但し、旅行日程については、業務の支障がない様、事前に各課上長の了解を得るものとする。

- 1 親等以内の同伴家族の費用を含む
 - 3 日間の特別休暇を取得することができる。
- なお、社員の海外旅行総合保険は会社にて付保する。

【海外旅行に際しての注意事項】

・対象者はよほどの事情がない限り対象年度に利用するものとし、利用しない場合は、その権利を放棄したものとする。・海外旅行にあたっては、上述の通り、会社が一定範囲の旅行総合保険を付保するが、万が一、事故等が発生した場合であっても、同総合保険の範囲内で対応するものとする。会社が付保する範囲以上を希望する場合は、超過分は個人負担とする。

【その他】

- ・本制度は海外旅行制度であり、国内旅行は認めない。
- ・海外旅行費用(保険費用含む)は税務上個人所得となり、利用者は給与所得の一部として所得税が発生することに予め同意するものとする。
- ・注意事項等変更あるいは追加が発生した場合は別途通知するものとする。

等々、さまざまな取り決めがある制度でございます。渡航先への旅行代金の一部を負担する制度です。

長々と弊社の制度について、記載致しましたので、実際に制度を活用して、渡航した感想をのべさせていただきます。

当初の海外旅行制度では、社員で抽選後、同じ場所へ、抽選が当たった者同士で 30 名くらいにてアメリカ、ハワイ、オーストラリア、ヨーロッパなどへの渡航がありましたが、90 年代になってから、自由企画が取り入れられるようになりました。

最初に海外旅行制度にて、1980 年代に、アメリカへと行きました。その当時のロスアンゼルスでリズムジンに初めて乗ったことを記憶しています。

2 回目当選時は、カナダへ行かせていただきました。



カナダへの旅行はその当時、まだ旅行代金も高額で補助金のおかげさまで渡航できたことを記憶しています。空港へ降り立ってからすぐの感想で、カナダは随分前から禁煙活動が盛んで(当時、私も喫煙者でした。)喫煙場所が現在の日本の状況に近い様子で、喫煙する場所が指定してありました。当時の日本では、駅のホームにたばこの踏みつぶしたものが散乱しており、それを駅員さんが掃除するのが日課という状況でした。カナダでの喫煙場所を探すのに大変だったことを記憶しています。

日本にはない、広大なスキー場でスキーができたことは、良い体験になりました。

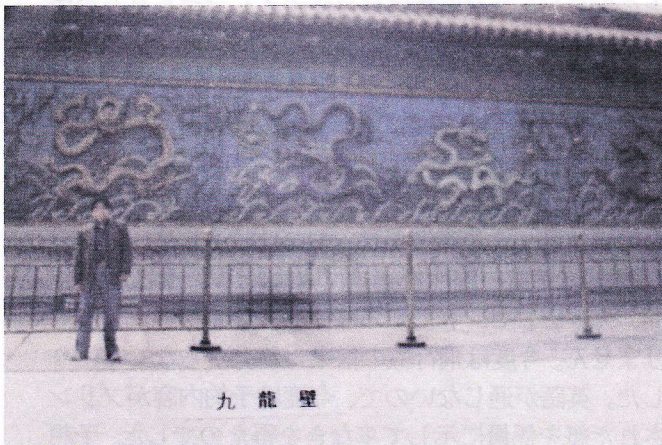
海外での、自分の行くことは自分の責任ということがよくわかった旅行でもありました。



広大なウイスラースキー場

スキー場も、まったく柵もなく、自由に滑れます。しかし、危険な場所（岩肌など、いたる所にむき出し）でも、スイスイと行けますので、そこで命を落としても自分の責任というわけです。

その後、3回目当選時は、1親等までの家族も含まれることになり、中国へ両親と旅行しました。少しは孝行のまね事もでき、この制度を大変有難く感じました。



九龍壁

中国 紫禁城の九龍壁

中国も90年当時は、かなり今とは違い、貨幣価値も低く、中国内で、西安、北京、上海、と多くの観光旅行ができました。西安などは、映画で出てくるような自然がまだまだ残っており、秦始皇帝陵と兵馬俑を見学したときには、地元の住民により発見された。兵馬俑坑は、この陵を取り巻くように配置されており、その規模は2万m2余におよぶ、きわめて大きなもので、3つの俑坑には戦車が100余台、陶馬が600体、武士俑は成人男性の等身大で8000体ちかくあり、みな東を向いているとあり。このような大きな陵墓を建てた、秦始皇帝の当時の権力とはいかなるものかと感じました。

また、印刷技術の元祖ともいえる拓本を目にしたとき、

中国4千年の歴史には世界に多大な影響と文化が流れているのだと実感しました。



拓本取り

拓本取りをする僧侶

4回目当選時は、ニュージーランドへ

5回目当選時は、ハワイへ家族同伴（子供年少のため）



カメハメハ大王像の前でカメハメ波

6回目当選時は、オーストラリアに家族同伴にて



『世界の車窓から』オープニングのキュランダ高原列車

海外旅行が好きで、制度以外にもいろいろ旅してきましたが、この弊社の制度に深く感謝しております。

アメリカ紀行(その1)

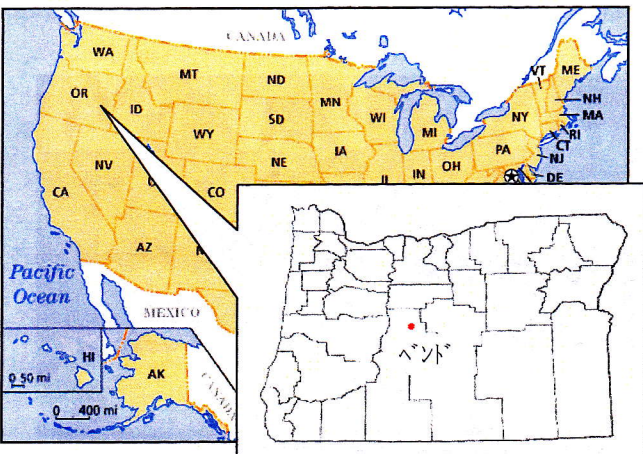
理事 櫻田 晃

序

思いもしなかったことですが、娘がアメリカ人と結婚したことから、この夏始めてアメリカはオレゴン州を旅する機会を得ました。今回の旅は、単なる物見遊山ではなく、待ちに待ったアメリカでの娘のウェディングパーティ開催と、娘の夫とその親や親戚との初めての顔合わせが主目的でした。約2週間滞在したオレゴンでの体験記を、数回に分けて書いてみたいと思います。

1 オレゴンについて

オレゴン州は、北側のワシントン州と南側のカリフォルニア州に挟まれた北米西海岸に位置します。人口は380万人余りです。緯度的には北海道の北端とほぼ同じです。



- オレゴン州と主に滞在したベンドの位置 -

主な産業は農業、林業、観光業で最近ではワインやビールづくりも盛んです。州都はセイラムで、一番大きな街はポートランド(都市圏人口約200万人)です。州内の景観は多様で、州西部は雨がが多く、州中央から東側は乾燥地帯が広がり、西部劇の舞台になるような土地柄です。オレゴンは大自然そのものでした。

2 いざアメリカへ

7月6日、いよいよアメリカへ行く日です。娘が予約してくれた飛行機は、午後3時30分発のデルタ航空618便のボーイング747型機でした。早々と成田空港に着き、昼食を済ませて搭乗を待っていましたが、飛び立つ予定時間の2時間くらい前になって、「同機は点検の結果、車輪を交換する必要が生じたので2時間遅れになる。」とのアナウンス。早速の試練です。一瞬、不吉な予感がよぎりましたが、事が事だけにすぐ思い直して、「むしろこれで安心」と気持ちを切り替えたのでした。結局、成田で5時間くらい待つはめになりましたが、私たちを乗せた618便は2時間遅れでようやくアメリカに向けて飛び立ちました。初めてのアメリカへの期待と、それを

はるかに上回る不安を抱えての旅立ちでした。

機内では、落ち着きのない子供のように何度となく目の前のモニタに刻々と表示される飛行位置と、機外を見比べていました。飛行機は日本の夕方からアメリカ時間の朝に向かって飛んでいきますので、機外は一向に暗くなりません。また、普段なら眠くなる時間なのに興奮と窮屈な座席のせいでなかなか寝付けませんでした。

仕方なく、少しでも英語の勉強をと(この期に及んで)、洋画ばかり選んで映画鑑賞をすることにしました。この間約9時間。結局、映画を2本と半分見たところで、飛行機はポートランド国際空港にめでたく着陸したのでした。

3 最初の試練

ポートランド国際空港に着いたのは当地時間で午前10時過ぎでした。空港到着後の入国検査では、持ち込みかばんの中身はもちろんのこと、靴は脱がされ、ベルトもはずすよう指示されました。ここは難なくパスしましたが、そのあと最初の試練が待ち受けていました。娘から聞いていたとおり、入国手続きの際、空港係員に“アメリカに来た目的”、“行き先”、“誰に会うのか”、“その人との関係は”など係員に早口でまくし立てられたのでした。想定内の質問内容だったので、何となく意味は分かり、それに答えるのですが、発音が悪いためか、今度は相手が分からず会話が成立しません。

数分のやり取り後、埒が明かないと判断した係員は、日本語が分かる別の係員を呼んでくれました。何のことはない日本語でやり取りして一件着落と相成りました。

とりあえず第一関門を通過できてホッとするのも束の間、次はレドモンドまでの飛行機に乗り継がなければなりません。今度は飛行機の搭乗口が分からなくて困りました。英語が通じないので、今度は予約内容がプリントされた紙を係員に示して事なきを得たのでした。予想したこととはいえ、言葉が通じない不便さを改めて痛感したのでした。



- ポートランドからレドモンドまでのプロペラ機 -

つづく

みんなの広場

■ 島崎藤村忌開催される

島崎藤村忌の法要が平成 25 年 8 月 22 日に神奈川県中郡大磯町の地福寺で盛大に行われた。

8 月 22 日は藤村の命日です。法要終了後境内にある藤村夫妻の墓前で参列者により線香と花が手向けられた。

藤村作詞の明治学院大学の校歌が有志により斉唱された。

主催は(公社)大磯町観光協会。



-当日のスナップ-

■ 原爆症 幻のカルテ発見

1945 年 8 月 6 日、広島で被爆し世界で初めて「原子爆弾症」と診断された女優、仲みどりさん(享年 36)のカルテの一部などの診療記録が見つかりました。

戦後、原本の大半が行方不明になり「幻のカルテ」として研究者が捜していたものです。当時の関係者の遺族が遺品を整理していて発見しました。被爆してから 18 日後に亡くなるまでの様子が詳細に記されていた貴重なカルテです。

■ 神奈川県議会を傍聴

去る 9 月 20 日(金)、神奈川県議会平成 25 年第 3 回定例会において、民主党・かながわクラブの合原康行議員が、一般質問に立たれました。今般、傍聴しましたので、質疑の内容についてご報告します。

合原議員は、医療関係出身であり、神奈川放友会が支援しています。一般質問の内容は、次の 4 項目でした。

- 1 健康寿命日本一を目指す取組について
 - (1) かながわ保健指導モデル事業について
 - (2) ライフステージに応じた食の啓発について
- 2 介護保健施設の栄養管理に対する指導について
- 3 若年者の就業支援について
 - (1) 若年者と中小企業とのマッチングの促進について
 - (2) 若年者に対する就業支援施策の周知方法について
- 4 若者が県政に対して意見を出しやすい環境の整備について

これらの質問に対して、黒岩知事、いのち・健康担当理事、産業労働局長よりそれぞれ答弁がありました。

News & Voice

■ 会員訃報 新貝友三郎氏逝去

元川崎市立川崎病院の技師長で、第 10 代神奈川県放射線技師会会長(昭和 53~56 年)でもあった新貝友三郎氏(91 歳)が、9 月 26 日未明に県立循環器呼吸器病センターにて逝去されました。

ここに、生前の氏のご貢献(1996 年に勲五等瑞宝章受章)に感謝するとともに、心より哀悼の意を表します。

■ 汚染水漏れ問題で IAEA が協力意向表明

毎日新聞の報道によると、福島第一原発の汚染水漏れのモニタリングに関して、IAEA の天野之弥事務局長は 9 月 26 日、「海洋影響調査について、国際的な標準に基づいた信頼性の高いモニタリングが必要だ。」と述べ、IAEA の協力で海洋監視の強化を図る必要性を訴えた。

これは、国際的な風評被害にまで発展しているように、事故対応の悪さで国際社会からも信頼を失っている日本のモニタリングだけでは不十分との IAEA の見解によるもので、日本としては歓迎すべき動きと考える。

■ 第 15 回神奈川放射線学術大会(ご案内)

日 時：平成 26 年 1 月 26 日(日)

場 所：横浜市開港記念会館

〒231-0005 横浜市中区本町 1-6

テーマ：県民に貢献する医療

対 象：一般市民、医療関係者

主 催：公益社団法人 神奈川県放射線技師会

■ 食と放射線の第二弾を刊行

東日本大震災により、東電福島第一原発の放射能汚染事故が引き起こされ、風評被害は地元住民のみならず今や国際的な問題にまで発展しつつあります。こうした状況から、今ほど「食と放射線」に対する安全・安心について、色々と考えさせられることはありません。専門職として、放射能汚染の現状を把握し、多少でも知り得た知見を国民に還元する活動が必要であるとの熱い思いからまとめた副読本です。11 月 1 日発行予定ですので、会員諸氏におかれましても、ぜひご一読頂きご批判等頂ければ幸いです。

☆ 編集後記 ☆ ☆ ☆

最近、がん研究においては「がん幹細胞」が注目されているらしい。たまたま見ているテレビ番組で知ったことだが、それぞれのがんが存在する「がん幹細胞」を死滅させることでがんを根治できるかも知れないというものである。すでに、生存率を向上させることに成功したとの報告もある。もし、すべてのがんがこの治療法によって根治できるなら人類にとって大朗報である。[A.S.]

文学探訪

島崎藤村の史跡を訪ねて

文豪・島崎藤村が晩年を過ごした大磯町の自宅を見学します。また、藤村が死後葬ることを希望していた地福寺をガイド付きで参拝します。その後、平塚の食事処に移動し、本イベント企画担当の小松崎真一理事によるミニ講演「画像による藤村の生涯」及び、イベントの締めくくりとしておいしい日本料理に舌鼓を打っていただくという魅力いっぱいの企画です。秋の一日、藤村ゆかりの地を訪ねて、在りし日の文豪を偲んでみるのも一興かと思えます。どうぞ奮ってご参加ください。

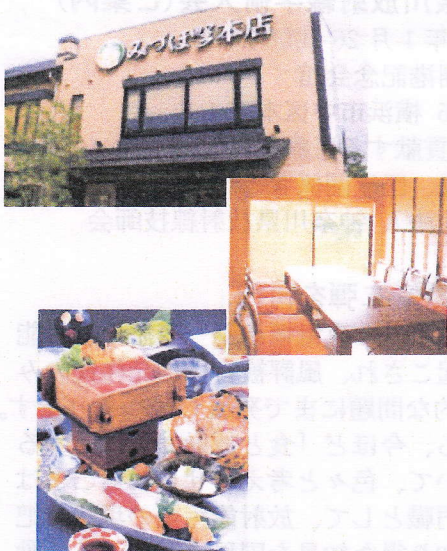
場 所 : 神奈川県中郡大磯町 地福寺、旧島崎藤村邸
行 程 : JR 大磯駅集合→地福寺→旧島崎藤村邸→大磯駅
(9:30~11:30 大磯町ガイドボランティア協会によるガイドあり)
→日本料理“みずほ野本店”で昼食(送迎バスによる移動)
→JR 平塚駅で 15 時解散予定

集合場所 : JR 大磯駅 am9:00
日 付 : 平成 25 年 11 月 9 日(土)
時 間 : 9:00~15:00
費 用 : 4,000 円(昼食代、ガイド料金含む)

千曲川に流れてゆく
小鉢の古き城ははらばらしく遊子恋しむ縁ふ
口をくちくちと淡を注ぎてあまのうらまをまててまらぬ夢の
旅人しむれてつらけりてあまのうらまをまててまらぬ夢の
旅人しむれてつらけりてあまのうらまをまててまらぬ夢の



イメージ



木曾路はすべて山の中である。あるところは岨つたいに行く崖の道の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷のはこの深い森林地帯を貫いていた。

夜明け前 第一部

序の章

椰子の実

名も知らぬ遠き島より
流れ寄る椰子の実一つ

故郷の岸を離れて
汝はそも波に幾月

- * 食事処 : みずほ野本店(平塚市内)
- * ミニ講演 : 画像による藤村の生涯
講師 小松崎真一

〈募集方法等〉

対 象 : 会員以外の方も参加自由です。
希望者 : 参加を希望する方は、準備の都合がありますので、11月1日までに、下記あて電話によりお申し込みください。

■申し込み先:045-783-9454 橋口(宅)

主 催 : 神奈川放友会